

平成23年度

ふくおかしの 家計簿

目次

予算とは？何に使っているの？

- 予算って何？平成23年度の予算は？…………… 01
- 収入(歳入)と支出(歳出)の内訳は？…………… 01～02
- 市民一人あたりにすると？…………… 03
- 予算を「家計」に例えると？…………… 04
- どのような事業に使うの？…………… 05～10

福岡市の財政状況はどうかの？

- 借金はいくらあるの？他の政令指定都市と比べるとどうかの？… 11
- なぜ借金が増えたの？どうして借金をするの？…………… 12
- 収入や支出はどうなってるの？…………… 13～14
- このままだと福岡市の財政はどうかの？…………… 14

福岡市の財政をどうやりくりしていくの？

- 財政健全化の取り組みは？…………… 15～16
- 平成23年度における財政健全化の取り組みは？…………… 17～18

**福岡市の
平成23年度予算
財政状況
財政健全化に向けた取り組み
を紹介します！**

財政・予算に関する資料

● 福岡市ホームページ <http://www.city.fukuoka.lg.jp>

- ▶ 財政状況については 市政情報→財政・市債・公売→「決算」あるいは「財政の概要」
- ▶ 予算については 市政情報→財政・市債・公売→「予算」
- ▶ 財政リニューアルプランについては

市政情報→財政・市債・公売→「財政の概要」
をご覧ください。

財政・予算についてのお問い合わせ

● 福岡市財政局財政部財政調整課

電話：092-711-4166

ファックス：092-733-5586

Eメール：zaisei.FB@city.fukuoka.lg.jp

〒810-8620 福岡市中央区天神1-8-1

ご意見やご提案をお寄せください。

平成23年6月発行

1 予算とは？ 何に使っているの？

〔この冊子で使われている数値は、各項目で四捨五入していることがあるため、合計などが一致しない場合があります。〕

●予算って何？

福岡市に1年間に入ってくる収入を見積もり、その使い道を決めるのが予算です。つまり、みなさんが納めた税金などが、どのような事業にどれくらい使われるのかを示したものです。

●どのような予算があるの？

予算は、どの収入がどこに使われているのか、収入と支出の関係をはっきりさせるために3つの会計(一般会計、特別会計、企業会計)に区分しています。

●平成23年度の予算は？ ()は前年度

用語の解説

一般会計
福祉、教育などの行政の基本的な事業を行う会計(予算の中心)です。

◎**全会計 1兆9,068億円** 前年度比 4.5%増
(1兆8,253億円)

一般会計の予算は、過去最大規模となっており、政令指定都市(19都市中)では、大阪市、横浜市、名古屋市、札幌市について5番目の規模です。

◎**一般会計 7,662億円** 前年度比 3.7%増
(7,386億円)

◎**特別会計 8,903億円** 前年度比 5.7%増
(8,420億円)

特別会計は、使用料など特定の収入で、特定の事業を行う場合などに設ける会計です。福岡市には現在17会計(国民健康保険事業、介護保険事業など)があります。

◎**企業会計 2,503億円** 前年度比 2.3%増
(2,447億円)

企業会計は、民間企業と同じように事業収益で賄われている会計です。福岡市には、現在4会計(下水道、水道、工業用水、地下鉄)があります。

●収入(歳入)と支出(歳出)の内訳は？

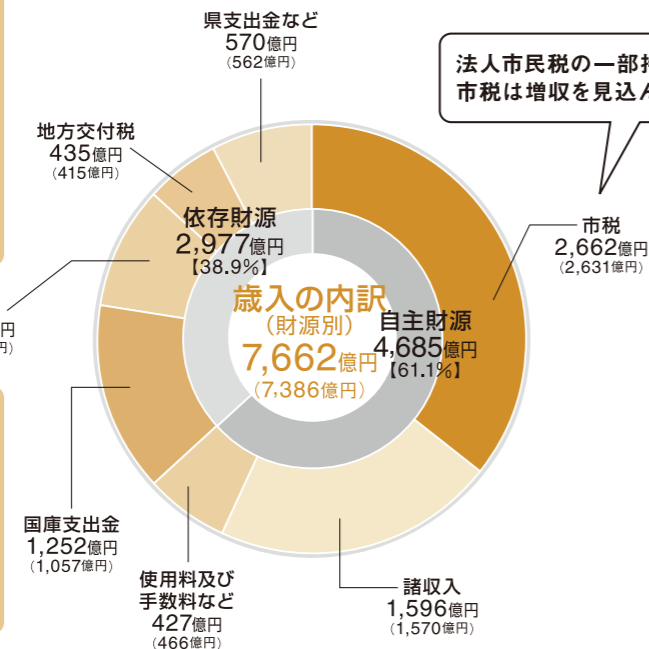
①一般会計の収入(歳入)

収入には、市税のほか国や県から交付されるお金や借入金があります。

()は前年度、【 】は構成比

用語の解説

地方交付税
地方公共団体間の財源の不均衡を調整することによって、どの地域に住む国民にも一定の行政サービスを提供できるよう、国税の一定割合の額を、国が地方公共団体に交付するものです。



法人市民税の一部持ち直しにより、市税は増収を見込んでいます。

用語の解説

歳入・歳出
会計年度内の収入・支出の総称です。

用語の解説

自主財源と依存財源
歳入には、市税など市が自らの判断で収入できる自主財源と地方交付税や国庫支出金(補助金)等、国などから割り当てられる依存財源とがあります。自主財源の比率が高いほど自主的な財政運営ができるといえます。

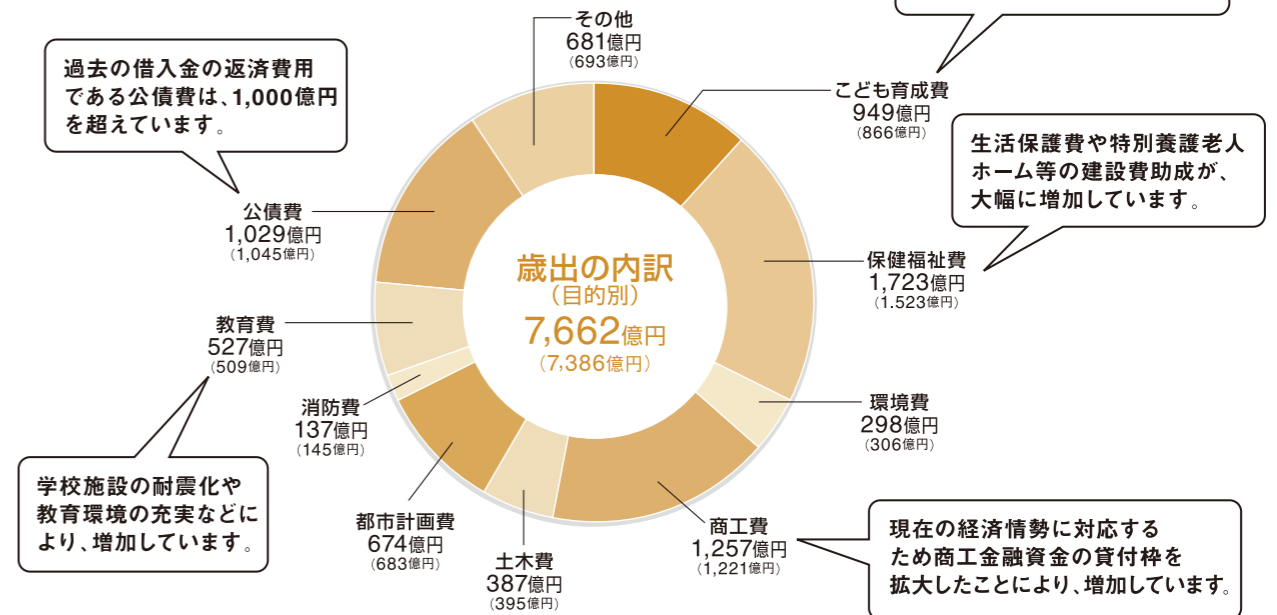
用語の解説

市債
道路や学校など長期間使用する施設建設などの財源として市が借り入れる長期借入金です。毎年度一定額を返済することで、市の財政負担を平準化します。

②一般会計の支出(歳出)

【目的別】

予算では、子育て、福祉など目的ごとにどれだけ使うのか定めています。()は前年度



過去の借入金の返済費用である公債費は、1,000億円を超えています。

子ども手当や保育所運営費など子育て支援の充実のため、増加しています。

生活保護費や特別養護老人ホーム等の建設費助成が、大幅に増加しています。

学校施設の耐震化や教育環境の充実などにより、増加しています。

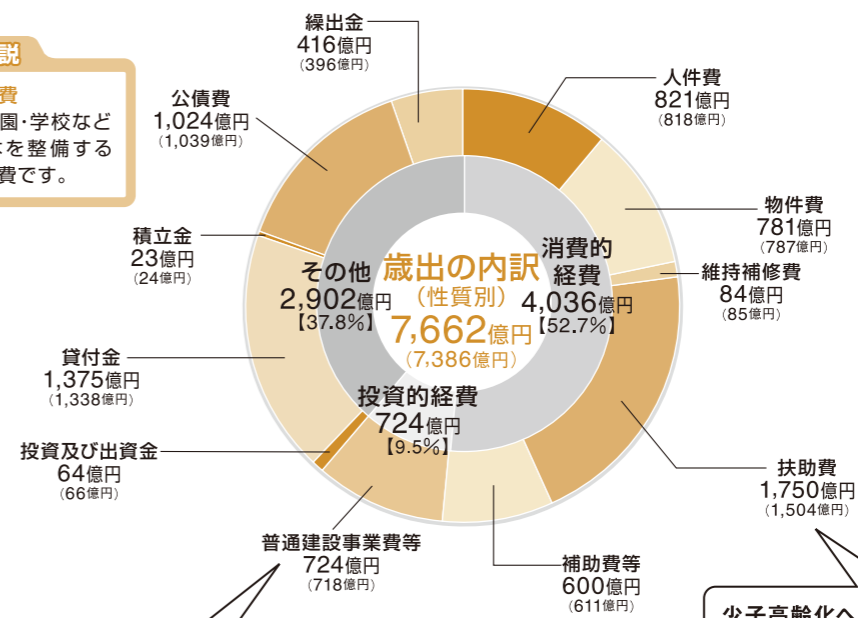
現在の経済情勢に対応するため商工金融資金の貸付枠を拡大したことにより、増加しています。

【性質別】

予算は、目的別だけではなく、人件費や物件費など性質による分類からもどれだけ使うのかが見ることができます。()は前年度、【 】は構成比

用語の解説

投資的経費
道路や公園・学校など社会資本を整備するための経費です。



用語の解説

物件費
光熱水費、消耗品費、施設の管理費などです。

用語の解説













繰出金
国民健康保険など特別会計に支出する経費のことです。

保育所や特別養護老人ホーム等への建設費助成などにより、普通建設事業費等は増加しています。

少子高齢化への対応や、近年の景気・雇用情勢の悪化などにより、福祉関係の費用である生活保護費、保育所運営費、子ども手当などの扶助費は増加しています。

●市民一人あたりにすると？

一般会計の予算を市民一人あたりに換算すると約53万5千円となり、市民生活の向上や地域経済の活性化などいろいろな施策に取り組んでいます。

	平成23年度予算		
	億円	円	市民1人あたりの予算
保健・医療・福祉に 	1,739	121,509	(22.8%) 高齢者も障がい者も誰もが住みやすいまちづくりを進めます。
地域経済の発展に 	1,389	97,049	(18.1%)
道路・住宅・計画的なまちづくりに 	961	67,163	(12.5%) 待機児童の解消など、健やかな子どもの育成に積極的に取り組みます。
こどもの育成に 	950	66,398	(12.4%)
学校や教育に 	562	39,293	(7.3%) 学校施設の耐震化や、教育環境の充実に積極的に取り組みます。
行政の運営に 	537	37,516	(7.0%)
災害に強いまちに 	444	31,026	(5.8%) 浸水対策事業など危機に強い安全・安心のまちづくりに取り組みます。
清潔なまちに 	317	22,188	(4.1%)
地下鉄・水道事業の支援に 	266	18,627	(3.5%)
地域活動・文化・スポーツに 	195	13,618	(2.5%)
公園整備や緑の保全に 	174	12,139	(2.3%)
新鮮で安全な食料の提供に 	128	8,966	(1.7%) 市民一人あたりの予算53万5千円は、19政令指定都市中、2番目の多さです。
合計	7,662	535,492	(100.0%)

※平成22年12月末現在の人口(143万804人)で割っています。
※()内は、構成比を示しています。

●予算を「家計」に例えると？

一般会計の予算(7,662億円)を年間の収支が500万円(1月あたり41万6,000円)の家計に置き換えて説明します。

給与のうち、基本給の多くが市民の皆さんが納めた市税です。諸手当のうち、地方交付税は、どの市町村も標準的なサービスを受けられるよう地域間格差を解消するため、国から交付されるものです。また、国・県支出金は、生活保護や道路整備など市の事業の一部を国や県が一定割合を負担するものです。

ふくおか家・1カ月の家計簿

《収入》

給与	30万円
うち基本給 (市税などの自主財源)	17万7,000円
諸手当 (地方交付税、国・県支出金など)	12万3,000円
銀行からの借入 (市債)	3万8,000円
貸したお金の返済金 (貸付金元利収入)	7万8,000円
計	41万6,000円

《支出》

家族の医療費 (扶助費)	9万4,000円
ローンの返済 (公債費)	5万6,000円
食費 (人件費)	4万5,000円
光熱費や通信費など (物件費)	4万4,000円
家・車・電化製品の修理・買い換え (維持修理費、普通建設事業費)	4万4,000円
家族への仕送り (繰出金、補助費)	5万5,000円
友人などへ貸すお金 (貸付金)	7万8,000円
計	41万6,000円

義務的経費

ローンを5万6,000円返済する一方、新たな借入は3万8,000円に抑えました。借金残高を減らす努力をしています。

家族の医療費(生活保護費などの扶助費)、ローンの返済(公債費)、食費(人件費)の3つは、「義務的経費」と呼ばれています。これが多いのは、一般家庭のエンゲル係数(家計における食費の占める割合)が高いことと同じで、家計にあまり余裕がないことを意味します。ちなみに、福岡市の歳出総額に占める義務的経費の割合は、46.9%となっています。

●どのような事業に使うの？

- 引き続き厳しい景気・雇用情勢に適切に対応するため、**経済対策や雇用対策に積極的に取り組みます。**
- 「人と環境と都市が調和のとれたまちづくり」の実現をめざし、**市民の安全・安心の確保や、将来の成長を牽引する分野へ積極的な投資を進めます。**

経済・雇用対策の更なる充実に取り組みます。

経済対策

中小企業の経営強化を図りながら地域経済の下支えを行います。

緊急経営支援

- 新規貸付枠の確保(商工金融資金)**
前年度を上回る最大規模の貸付枠を確保(新規貸付枠:当初予算比2,132億円→2,178億円に拡大)
- 融資制度の充実**
「経営安定化特別資金」や「ワールドビジネス振興資金」などを新たに創設し、中小企業の経営を支援

公共事業

- 前年度を上回る事業費の確保**
博多駅再整備などの大規模事業が終了する中、保育所や特別養護老人ホーム整備などを大幅に拡充することにより、前年度を上回る事業費を確保
(当初予算比718億円→724億円)
- 公共事業の早期発注や工事代金支払いの迅速化などの支援策を継続実施**

雇用対策

就業機会の創出や求職者への支援などに取り組みます。

雇用の創出・就労の促進

- 雇用対策2基金を活用した雇用創出事業を実施します**
(105事業、雇用創出効果1,426人)



- 中高年への就労支援**
各区の中高年就業相談窓口で就職相談、職業紹介、中高年人材活用事業(雇用創出効果100人)を実施
- 若者への就労支援**
大学新卒者・フリーター等の就労支援(正社員チャレンジ応援事業、会社合同説明会、就活支援プラザ事業など)

住宅の提供等

- 解雇等により住居を喪失した人への市営住宅の提供**
- 住居を喪失または喪失するおそれのある離職者への住宅費を助成**

『人』を大切にし、全ての人が夢を持ち、活躍できるユニバーサルなまちづくり

1. 新しい発想や才能が溢れるまちづくり

人材交流や文化・スポーツ交流を推進するとともに、大学や人材の集積を活かし、知識と感性溢れる人材が活躍する場づくりに取り組みます。

ミュージアムの魅力向上

1億4,518万円

美術館・アジア美術館・博物館の3館が文化芸術振興拠点、集客交流拠点としての役割を効果的に果たすため、魅力向上のための総合的なミュージアム施策を展開します。



福岡市美術館

2. 共働と地域主体のまちづくり

NPOと行政の共働や住民主体の地域活動を支援するとともに、市民が集い活動できる場の確保に取り組みます。

NPOと行政による共働事業提案制度

1,304万円

NPOの新しい視点や発想を活かした事業提案を募集し、企画段階からNPOと行政と一緒に取り組む共働事業提案制度により、NPOと連携して事業を実施します。

3. 健やかな子どもの育成

安心して生み育てられる環境づくりの充実を図るとともに、子どもたちが様々な体験・活動ができる場や機会の提供に取り組みます

保育所待機児童の解消 20億8,391万円

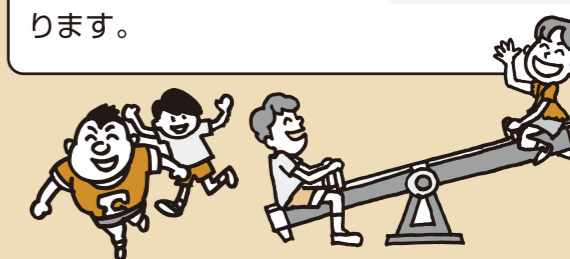
新築、増改築、分園整備、家庭的保育事業など様々な手法により、新たに1,100人分の保育所整備を行います。

留守家庭子ども会事業 14億9,877万円

受入学年を5年生まで順次拡大するとともに、老朽化した施設の建て替えや改修を行います。

児童虐待防止に向けた取り組み 6,742万円

虐待を防止するため、こども総合相談センターに専門職員を増員するとともに、区役所の相談支援体制の強化を図ります。



4.教育力の向上

「新しいふくおかの教育計画」に基づき、子どもたちの学力向上に向けた取組み、不登校・ひきこもり対策や良好な教育環境の充実を図ります。



福岡スタンダード
(あいさつ・掃除、自学、立志)
推進キャラクター
スタンバード

小中学生の外国語力向上 2億9,571万円

小学生の英語によるコミュニケーション能力の育成や、中学生の英語力向上のため、ネイティブスピーカー等を活用した英語教育を行います。



学校規模適正化の推進 4億5,972万円

小規模や大規模の小・中学校で生じている様々な教育上の課題を解決し、学びやすい環境を実現するため、学校規模の適正化を進めます。

不登校・ひきこもり対策の強化 3億6,454万円

児童生徒一人ひとりへのきめ細やかな対応を行うため、不登校対応教員とスクールソーシャルワーカーの増員を行います。

5.高齢者も障がい者も住みやすいまちづくり

障がい者の自立と社会参加の促進や、高齢者の健康と福祉の向上、地域での暮らしを支える取組みや、こころとからだの健康づくりなどの充実を図ります。



国民健康保険料の軽減 8億8,794万円

中間所得者層の保険料負担の軽減を図るため、賦課割合を見直すとともに、一般会計からの特別な繰出により、予算上の1人あたり年間保険料を平均2,000円引き下げます。

地域福祉ソーシャルワーカーモデル事業 1,918万円

民生委員など、地域で見守り活動を行う団体などを支援する専門職員として、地域福祉ソーシャルワーカーをモデル的に配置します。

特別養護老人ホーム等の整備促進 24億6,893万円

特別養護老人ホーム建設等に対する助成を行い、402人分を整備します。

6.「ユニバーサルシティ福岡」の実現

人に優しい取組みをサポートし、思いやりを育む教育を行うとともに、公共施設などのバリアフリー化を進めます。

ユニバーサルシティ福岡の推進 1,350万円

官民連携でユニバーサルデザイン推進協議会を設置し、ユニバーサルデザイン指針の作成や、フォーラムを開催します。

「環境」を大切にし、

質の高い暮らしができるまちづくり

7.低炭素型のまちづくり

市民・事業者の温暖化対策などへの支援や、市民・事業者・行政の連携によるごみの減量・リサイクルに取り組みます。

新エネルギーの導入促進 1億3,538万円

住宅用太陽光発電システムや家庭用燃料電池の設置経費の助成などを実施します。



住宅用太陽光
発電システム
家庭用燃料電池(エネファーム)

新世代環境都市ビジョン 1,500万円

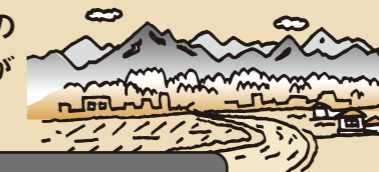
環境都市づくりの分野で新しい価値の創造をめざす、新世代環境都市ビジョンを策定します。

事業系ごみ資源化推進ファンドの創設 5,289万円

民間事業者による事業系ごみの資源化の取組みを支援するため、新たな基金を創設します。

8.水と緑のまちづくり

恵まれた自然を大切にしながら、緑豊かな都市づくりに取り組むとともに、水と緑の保全を図り、質の高い暮らしができるまちづくりを進めます。



公園再整備事業 9億4,888万円

老朽化が進んだり、地域のニーズに合わなくなった公園の再整備をすすめます。

都心部を彩る緑づくり事業 8,879万円

博多駅周辺などの都心部において、花や緑による街路空間の整備や、公園のきめ細やかな管理により、来街者の印象に残る緑豊かなまちづくりを進めます。

かなたけの里公園整備事業 6億9,858万円

市民が自然や農とふれあい、活動できるレクリエーション・リフレッシュの場として、かなたけの里公園の整備を推進します。

9.食と環境を支える農林水産業

付加価値の高い農林水産物の供給や販路拡大、新たな担い手の育成や中央卸売市場の機能強化に取り組みます。



めざせ新規就農! 応援事業 325万円

新規就農相談窓口の充実や、貸せる農地の発掘による農地確保の支援を行うなど、総合的な就農支援を進めます。

新青果市場整備事業 55億4,823万円

青果部3市場(青果・西部・東部の各市場)の課題である青果市場への一極集中化、施設の老朽化・狭隘化等を解消し、青果物を安定供給していくため、青果部3市場を統合し、アイランドシティに整備します。